



文化勲章受章記念寄稿

文化勲章を受理して

日本私立看護系大学協会名誉会長

聖路加看護大学名誉学長

日野原 重明

私は2005年11月3日の文化の日に、皇居の正殿松の間で、5人の文化勲章受章者の一人として、直接天皇陛下から勲章を、そしてそれに立ち会われた総理からは賞状を頂きました。

文化勲章は、その年にもしあればノーベル賞受賞者と、かつて文化功労者に選ばれた人の中から毎年5名選ばれることになっています。文化功労者は毎年各回の知名人で過去に業績が高く評価されている方が12名選ばれるのです。この方々には年金が払われるのですが、文化勲章はその中から数年か、それ以上経た人の中から選ばれるのです。

文化勲章受章者の中では美術、その他の芸術家や作家や役者、科学畑からは少数選ばれますが、科学といっても範囲が広いので、医学関係の研究者は数年に1回、時には10年以上もたって1人選

ばれるほど、数少ない章です。

私の受章の理由は、内科学、医学教育、看護教育、医療の革新への貢献ということが推薦理由となっていました。

過去20年に医学研究者は4名ありましたが、臨床医学者としては稀といえましょう。

私の場合、医学教育、特に卒後医師の2ヵ年の研修課程を法律化することの提唱や、看護教育の向上や看護学の大学院博士課程の発足に私が貢献したことと、医学に予防医学としての人間ドックの導入や、血圧の自己測定という、在来血圧は医師のみが測定したのを私は医療職でない一般の社会人にもこれを行わせるという医療の考えの一新、そして生活習慣病という概念を法律の中に導入するなどの医療の革新に新風を入れたことなどが受章の理由とされています。

私が看護教育や一般人の健康教育のために斬新な社会活動を行ってきたことが、文化勲章の受章の理由と考え、審査の審議会の委員の方々の目が看護や医療の領域で貢献したという人にも注がれたものと解するのです。

このように、看護や医療が日本の文化のために貢献することが受章理由として認められるようになったとすれば、それは非常に感謝すべきであると思います。

私は戦前から看護教育に関心を持ち、看護の基礎教育とバイタルサインの学習方法を推進し、問題解決技法やPOSの導入にも努力し、看護の大学院設置の推進力となってきました。この看護の

領域の拡大や向上に私の医師としての貢献が高く評価されたと考えると、今回の私の受章は日本の有識者の看護への関心の深いことも影響しているものと思います。

私は今後、日本の看護師にナース・プラクティショナーの業務の拡張が認められるように努力すると同時に、医療者の中での看護要員の質的向上だけでなく数的な増加が一般的社会に認められ、これらが早く法則化されるための努力を私は今後重ねて行きたい心境を持っています。

私立看護系大学が、この方面への努力に協力されることを願ってやみません。





私立看護系大学協会における 研究助成推進の意義とあり方

日本私立看護系大学協会理事
東京慈恵会医科大学

櫻井 美代子

研究助成事業は、樋口前会長を始め前任担当理事の方々が、平成元年～11年度までの看護学領域における文部科学省科学研究費補助金の採択状況に関する調査研究に基づき検討を重ね、平成14年度から活動が開始されています。私は、平成16年度から本事業を担当しておりますが、前任者の方々のご努力に敬意を表するとともに、担当者として加盟校会員の皆様が本協会における研究助成事業を有効に活用していただけるよう積極的にPRしていく責任を感じております。

1. 研究助成事業の内容

本事業は、日本私立看護系大学協会会則第4条の(1)大学における教育・研究に関する事業の一環として、本協会の加盟校における看護学研究者の育成と、さらなる向上発展を奨励することを目的にしています。具体的には、優れた研究論文に対する「看護学研究奨励賞」、若手研究者の研究助成を目的とした「若手研究者研究助成」、より多くの教員が国際学会で発表することを奨励するための「国際学会発表助成」の3つの事業があります。看護学研究奨励賞の受賞者には、会長から賞状と副賞10万円が授与され、若手研究者研究助成の対象者には1件30万円、国際学会発表助成対象者には1件20万円の助成金が授与されます。また受賞者の論文抄録は会報に掲載し、若手研究者研究助成対象者には、2年後に研究成果についての報告会を設けています。

2. 選考規程について

研究助成の選考は、理事および複数の正会員によって編成された選考委員会において厳選な審査を行っております。看護学研究奨励賞の審査基準は、「投稿雑誌、独創性、看護学への貢献、研究の発展性、国際性」の5項目であり、各項目の点数評価および自由記載による選考意見を参考に審議が行なわれています。

また若手研究者研究助成の審査基準は、「独創性、研究経費の妥当性、看護学への貢献、明快な研究計画、従来の研究経過・成果・準備状況」の5項目であり、国際学会発表助成の審査基準は、「参加学会の評価、発表研究の独創性、看護学への貢献、今後の発展性、発表者の評価」の5項目であり、同様に各項目の点数評価および自由記載による選考意見を参考に審議が行なわれています。

平成17年度からは、より多くの教育機関や会員の皆様に応募していただくために、①過去5年以内に本事業のいずれかに選出された人は、基本的に応募を遠慮してもらうこと、②同じテーマで他の機関からの助成が決定している場合は、応募できないこと、③国際学会発表助成に応募する際は、accept済みの証明書等を添付することの3項目を募集案内に明記することになりました。

3. 本協会における研究助成事業の意義

Evidenceに基づく質の高い看護を提供するためには、看護学研究者による地道な研究活動の継続が必要です。そして研究を継続していくためには、十分な研究費と研究費を獲得するための環境が必要であると思います。看護系大学の増加に伴い、看護学領域における文部科学省科学研究費補助金の採択数は確実に増えていますが、設置主体別にみると、私立は国公立の採択増加率の約半分程度に過ぎないという調査結果(表1)が報告されています。

その後、国立大学が法人化されましたが、それによって私学の補助金が増額されることもなく、多くの私立大学では、厳しい財政の中での教育・研究活動を余儀なくされているのが現状といえます。また平成17年度現在、全国の看護系大学のうち大学院看護学研究科修士課程を開設している大学は73校ありますが、そのうち私立は17校(23.3%)という状況です。私学特有の

ユニークな教育理念に基づく大学院の増設が期待されている中で、看護学研究者のさらなる向上・発展に向けた支援が不可欠であると思います。しかし私学の場合は、各教育機関の諸事情によって教職員の研究活動が制限されることも少なくありません。したがって私立看護系大学協会が研究助成事業を行なうことは、若い看護学研究者の育成はもとより、加盟校会員の研究活動の活性化に繋がると思います。

4. 本事業の今後の方針

過去4年間の各助成事業への応募者数と受賞者数を表1に示しましたが、奨励賞および助成の申請数は少ない状況です。

本事業の募集は、毎年4月1日から4月末までの1

ヶ月間行なっていますが、この期間は会員の移動が多い時期でもあり、今後は募集期間を検討していく必要があると考えています。また多くの会員に研究助成事業を有効に活用していただくためには、助成を受けた研究成果の報告会や機関相互の情報交換の場を設ける必要があると感じております。そこで本年度は、平成15年度に若手研究者研究助成を受けられた方々の研究成果発表会を、平成18年11月25日(土)に聖路加看護大学において開催する予定ですので、研究活動に関する情報交換の場として参加していただきたいと思えます。なお、研究助成事業の案内と応募書類等の詳細は、会報とホームページ(<http://www.spcnj.jp/>)に掲載していますので是非ご覧下さい。今後とも本事業に対するご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

表1 研究助成事業の応募状況と受賞者

| 年度 | 看護学研究奨励賞 | | 若手研究者研究助成 | | 国際学会発表助成 | |
|------|----------|------|-----------|------|----------|------|
| | 応募者数 | 受賞者数 | 応募者数 | 受賞者数 | 応募者数 | 受賞者数 |
| 14年度 | 5 | 2 | — | — | — | — |
| 15年度 | 4 | 4 | 13 | 6 | 4 | 2 |
| 16年度 | 2 | 1 | 5 | 2 | 7 | 5 |
| 17年度 | 3 | 3 | 10 | 4 | 4 | 3 |

日本私立看護系大学協会：平成11年度年報,p.3より



第7回日本私立看護系大学協会セミナーの報告

看護系基礎教育における教員のコンピテンシー

日 時：平成17年11月4日・5日

場 所：藍野大学

企 画：藍野大学 藍野学院短期大学

神戸常盤短期大学・奈良文化女子短期大学

会 長：矢野 正子

1. 第7回日本私立看護系大学協会セミナーの趣旨

テーマを考えるにあたって最初にしたことは、「私立看護系大学が維持・発展するために、そこに所属する教職員に対し、私立看護系大学ならではのテーマに基づいた学習の場を提供する。あわせて当番校周辺地域および全国的にも参加を呼びかけ、地域社会に貢献しつつ本協会の周知を図る」という本協会のセミナーの目的を確認し、これまで開催された6回のセミナーのテーマなど概観することで、教員に求められているものや、めざすものの共通理解を行った。看護の大学が増え続けている中で、教員自身が教育だけでなく、一般的な仕事の基礎力を身につけているかという振り返りや、またその力のありようをこのセミナーを通して考えることから、キャリア開発を試みたいという趣旨でキーワードをCompetencyとした。この目標を達成するために基調講演やワークショップを取り入れ、事前に資料や文献を提示して、参加型の学習の場となるように企画した。



2. セミナーまでの経過

平成16年10月に天使大学（札幌市）で開催された第6回セミナーに企画担当者が参加し、活気あふれるセミナーと懇親会から勇気をもらい帰阪した。

平成17年1月に企画校が集まり、実行委員会は4回、報告書作成のための検討会を1回行った。第1回目の実行委員会では企画校の連絡方法の確認をした。3月上旬には基調講演をしていただく、大久保幸夫先生との交渉も終了し、委員会は矢野正子会長（藍野大学）の発案のもとにセミナーを通して実行委員一人ひとりが基礎力を見直すことができること、また各担当（ワークショップのファシリテーター・企画・庶務・会場・会計・懇親会など）の自主性を尊重し、互いの連絡を密にすることを基本にした。同時に本協会理事会や総会などの日程を確認しながら進め、その間に各ファシリテーターは図書や文献を検討しながら学習会を行った。7月の本協会総会までに、庶務を通して担当理事である松木光子先生に助言を得ながら進め、さらに前回の企画校の天使大学に連絡をとり、事務的な作業などの確認をした。

総会后、夏期休暇も重なったことから参加の申し込みが遅いため、本協会のホームページからの紹介を依頼し、近隣の実習施設などへ積極的に働きかけることによって、企画校の教員との親和力も深まった。

3. 結果

1日目の基調講演には298名、ワークショップには65名の参加があり、基調講演を聴いた学生からは、「コミュニケーションの方法にはリアクションが必要である」「大学生の間に筏下りから山登りへと基礎力を学ぶ」ことが大切であるという感想があった。

ワークショップの後、シュリンクス・フルートアンサンブルによる30分間のミニコンサートをはさんで、懇親会では本協会会長挨拶と、本学の高橋清久学長が歓迎の挨拶を述べられた。

2日目のワークショップの発表会では、活発な意見交換の後、大久保先生からは団塊世代と団塊ジュニアといわれる20歳代の仕事観、人間関係、情報態度、競争態度の比較説明があり、今後の課題の発見につながる講評であった。

最後に次回企画校である聖路加看護大学学長の井部俊子先生のご挨拶と、今回セミナー企画校の矢野正子会長がお礼のことは述べ終了した。

新設2年目の藍野大学において開催された本セミナーは、矢野会長の統率力のもと約1年間の準備・企画の過程で1人ひとりの教員の能力が発揮され、学生に看護を伝える役割や大学のあり方を確認できる機会になった。

これらの内容は第7回日本私立看護系大学協会セミナー報告書に詳細を載せていますので、是非手にとって見ていただきたいと思います。

4. プログラム

1) 11月4日(金)

13時 開会
 13時15分 基調講演
 「仕事に求められる能力とその育成・指導」
 講師：リクルート ワークス研究所
 所長 大久保 幸夫 氏

15時30分 ワークショップ

18時30分 懇親会

2) 11月5日(土)

9時15分 ワークショップの発表
 11時15分 講評：リクルート ワークス研究所
 所長 大久保 幸夫 氏
 12時 閉会

5. 基調講演「仕事に求められる能力とその育成・指導」

講師：リクルート ワークス研究所
 所長 大久保 幸夫 氏

- 1) キャリアの考え方
- 2) 能力の概念について
- 3) 3つの基礎力について
- 4) 基礎力のセルフチェック的プログラム
- 5) 大学で基礎力を身につけること・そのために大学ができること



6. 各ワークショップのテーマ

【第1グループ】

ヒューマンケアをはぐくむためのコンピテンシー

【第2グループ】

社会の動きにキャッチアップした看護教育のコンピテンシー
 —少子・高齢社会における新しい(母性・老年)看護教育とは?—

【第3グループ】

教員のキャリア開発に必要な基礎力

【第4グループ】

どう関わるか、「一・五」化する若者への看護教育
 —ケータイ・インターネットがもたらす功罪—

【第5グループ】

臨地実習における教員のコンピテンシー
 —個人情報守秘に関する指導事例を通して—

【第6グループ】

看護実践能力を育む臨地実習指導に求められる
 教員のコンピテンシー



(報告者：藍野大学 大町 弥生)

●参加者レポート● 「第7回日本私立看護系大学協会セミナーに参加して」

聖路加看護大学 外崎 明子

今回のセミナーは「看護基礎教育における教員のコンピテンシー」と題し、事前課題の提示もされ、教員自らのコンピテンシーが高まるよう企画されていました。

まずリクルート・ワークス研究所長の久保幸夫氏による基調講演は、事前課題でもある久保氏の著書「仕事のための12の基礎力(2004)」の内容も踏まえ、仕事に求められる能力に関して非常にわかりやすく、かつ論理的で説得力のあるものでした。講演を聞きながら、自分自身が生涯発達し続ける存在であり、自分のキャリアをどのようにデザインし、今後20~30年にわたり仕事を続ける中で、より高次のリーダーシップ性や創造的能力を発揮していくためには、どのような能力が求められるか自己評価を繰り返しました。さらに部下という立場から上司等の仕事の進め方を評価し、「仕事のための基礎力」について理解を深めることができました。私自身、助教授という職位の2年目にあたり、協働するスタッフを統率し、相談に乗りながら個々のやる気を引き出す関わりが求められ、課題の所在を短時間の中で明らかにし対処する場面が増えていることを実感していた時期でもあります。このため、「仕事をする存在」としての自分の能力について問い直し、また自分の仕事及ぼす影響力の大きさを実感することが仕事を続ける原動力にもなることをあらためて意識したことは、とても有意義でした。

続くワークショップは、小此木啓吾氏による『「ケータイ・ネット人間」の精神分析』を参考図書として、インターネットなどが普及する中で現代若者の思考やコミュニケーションはどのような特性か？その教育法とは？がテーマでした。このグループへの参加を選択したのは、以前からインターネット、携帯電話、Eメールの普及が私たちの日常生活の中での、対象との距離の持ち方、時間感覚、待つことへの耐性などについて、さまざまに影響を及ぼしていることを感じていたためです。ある時テレビコマーシャルで、「今、伝えなければ、変わってしまうかもしれないその気持ちを、

今、あの人に伝えよう」という、携帯電話会社のキャッチコピーを耳にしました。一見とても魅力的なフレーズですが、よく考えてみると、すぐに移ろってしまう一時的感情に振り舞わされるのはたまらないと感じました。世の中は受け手の状況に配慮なく、大量の情報がスピードを増して飛び交っています。このことは学生と関わる中で、時間や曜日を問わず、Eメールによって、自分が待たされることの不安を回避するために回答を求めてくる学生の行動の中に、すでに現れてきています。携帯電話やEメールによって常に誰かとつながってられる便利さと安心感は、反面、孤独や我慢に耐えられない人間の弱さを増幅するという代償を払っていることを、最近特に感じています。

翌朝、各グループの討議内容を発表し全体で共有した後、久保氏から講評がなされました。その中で、「豊かで辛苦を体験することのない社会でのみ生きている学生世代は、自己評価が高く、根拠に乏しい自信を持っている。このため一度大きな挫折を体験すると、自力で回復不能な弱さがある。また議論や争いは好まないが、自分軸を崩さず、何となく素直で優しいが、自分が傷つかないような友達関係を持とうとする。仕事の中では価値観、立場、世代の相違を越え、その場の罫を読み取る文脈理解力が求められ、これは友達関係のヨコ社会ではなく、異世代間のタテ社会の中で育成されるものである。」ことなどが述べられました。

看護はさまざまな状況にある人とコミュニケーションを図り、ニーズを引き出す職業です。相手の状況や考え方を読み取る文脈理解力が高められ、かつ他者を説得し、調整する能力を身につけられるような場面設定をして学生に提示していくことが必要です。さらに、教員がロールモデルとなり、このような役割を社会の中で現実的に果たしていることを示すことも、実践的な看護教育者としての今後の課題であると、セミナーを通して強く感じました。これは同時に、私自身のキャリア・デザインに大きな示唆を得るものとなりました。

理事会報告

平成17年度 第2回理事会報告

日 時：平成17年11月26日（土）14:00～16:00

場 所：日本赤十字武蔵野短期大学

出席者：10名（代理1名含む）

委任状7名（全役員数17名）

【報告事項】

1. 平成17年度事業活動経過報告について
各事業担当理事より事業活動経過について報告された。
2. 事務局報告
 - (1) 平成18年度加盟校入学試験日程等一覧、正誤表を発行した。Web公開を検討中である。
 - (2) 事務局体制の変更について
石井幸子、川鍋まりが交代で勤務する体制となった(非常勤)。出勤日は原則として火・木・金（祝日除く）の10:00～16:00である。

【審議事項】

1. 来年度役員改選について
各事業活動の引継ぎを円滑に行える役員交代の進め方について確認した。
2. その他
加盟校が全国各地に広がっていることを踏まえ、事業や会議の今後の展開方法について意見交換を行った。

平成17年度 第3回理事会報告

日 時：平成18年3月25日（土）14:00～16:00

場 所：日本赤十字武蔵野短期大学

出席者：15名（その他1名含む）

委任状3名（全役員数17名）

【報告事項】

1. 平成17年度事業活動報告及び決算について、各担当理事より報告された。
2. 平成17年度日本私立看護系大学協会決算（見込み）について事務局より報告された。
3. 平成18年度看護系学部・学科等新設（予定）情報について事務局より報告された。

【審議事項】

1. 日本私立看護系大学協会として展開していくべき今後の事業活動の方向性などについて、意見交換が行われた。
2. 平成18年度事業活動計画及び予算案について審議した。
3. 平成18年度役員改選に関わる事項について審議した。
4. 日本私立看護系大学協会事務局の体制について提案があり、検討していくこととなった。



事業活動セミナー「看護系および看護教育に関する社会的活動・提言事業」活動報告

活かしてください 看護の力

日 時：平成17年12月11日(日)

場 所：昭和大学上條講堂

企 画：三育学院短期大学・昭和大学

日本私立看護系大学協会の「看護および看護学教育における社会的活動・提言事業活動」の一環として、社会に看護を紹介し、看護の力を有効に活用して頂くことを目的として、今回は、【活かしてください 看護の力】というテーマで特別講演とシンポジウムを開催した。

1. 開催までの経過

担当校が2校とも関東地区に位置しており、地理的に比較的近かったため、メールでの交信に合わせ合同の会議を4回開催することができ、講演テーマの絞り込み、役割分担、原案の持ち寄り、検討などの準備が順調に進み、計画通りに会を運営することができた。

2. プログラム

12：30 受付開始

13：00 開会挨拶

13：10～14：00 特別講演「看護と私」

講師 女優・ニュースキャスター

東京大学大学院 医学系研究科博士課程

石井 苗子 氏

座長 三育学院短期大学学長

高橋 義文

14：10～16：20 シンポジウム

司会 三育学院短期大学看護学科

本郷 久美子

昭和大学保健医療学部看護学科

菅原 スミ

シンポジスト

—在宅緩和ケア—

在宅緩和ケア支援センター「虹」代表

中山 康子 氏

—子育て支援—

徳永家族問題相談室長

徳永 雅子 氏

—心のケア—

戸田中央総合病院看護カウンセリング室

ナースカウンセラー

広瀬 寛子 氏

—褥そう・失禁ケア—

昭和大学病院附属東病院

看護師長・WOC認定看護師

寺地 順子 氏

3. 参加状況

近隣の高校生、住民の皆様、看護学科生、看護師など、合計約130名の参加があった。

4. 特別講演の概要

石井苗子先生は、看護学生最後の4年次のターミナルケア実習でのご自身の体験からお話を始められた。「日本人の死生観」の復習時に出会った「檀山節考」と「看護の力・女性の力」の著書を紹介され、看護の中心テーマ、何を是とし何を非とするか、人間の生命力、生き方、死の受け止め方などを興味深くお話され、50分の時間があったという間に感じられた。2010年には65歳以上の男女が人口の25%、見渡す限り老人という社会となる、これは私には関係ないという話ではない、これは国力にも影響するものだ、65歳以上の方々にどう生きていただくのか、彼らをどう支えていくのか、自己の意識レベルを誘発させて看護の何かに携わるこ



とにより社会人として発言力を持ち、また看護職者として一人ひとりが自信を持って発言できるようになってほしい、と話を結ばれた。

5. シンポジウムの概要

NPO法人在宅緩和ケア支援センター“虹”の理事、中山康子氏は、「病気とともに生きる」という発想の中で、地域の市民とともに看護師がケアの力を発揮して活躍する場はまだ数多くあることをアピールされた。

家族問題相談室の徳永氏は、地域コミュニティの崩壊によって隣近所の声かけや助け合いも少なくなってきたと、このよう社会基盤の中で子供虐待が顕在化していることを訴えられた。虐待親への支援、子供のセラピーなど社会全体で取り組む必要を看護職者が具体的に行政や社会に訴えなければならぬとご自身の体験の中から語られた。看護カウンセリング室の広瀬寛子氏は生きていく限り長期に亘って病気と付き合いなければならない患者に対して、患者のゆれに寄り添い、そばにいることの意義について事例を通してお話くださった。認定看護師としてご活躍の寺地氏

は、専門領域の看護ケアの広がりや質の向上を目指して院内外の研修でスタッフ教育指導に参加すると共に、医師をはじめとして他職種協働で病棟を回診し、卒後5年目にして、思い描いておられた夢の実現を果たされたという、そして現在ご活躍の実際を語ってくださいました。

6. 特別講演とシンポジウムを終えて

日本私立看護系大学協会本部の先生方を始め多くの方々のお力添えを頂き、事業活動特別講演及びシンポジウムを無事終了することができた。書面をもってお礼申し上げるしだいである。5名の御講演からは、各演者の方々が生に言われるヒューマニズムや慈善家などの言葉の表現を超えて、命と健康についての看護の基本原則に立たれ、揺るぎない確信と熱意を持ってその信念を実現することに情熱を注いでおられる実践家であることが伝わってきた。参加された市民の皆様には拡大した看護活動を理解して頂けたと思う。また、看護学生の方々には選択した職業への確信と学びへの動機付けの強化につながれば幸いである。

(報告者：三育学院短期大学 本郷 久美子)

わが校の国際交流

‘独立自尊と実践力’ 涵養を目指して

慶應義塾大学 山下香枝子

始めに：わが校の‘国際交流’は、慶應義塾の「世界に貢献できる人材育成」という21世紀を見据えた教育理念を受けて、2001年の学部開設当初より、大きく2つの方面からカリキュラムの中に位置づけられている(表1)。

1つは、学生が選択科目の履修を通して、先進国(アメリカ、イギリス)の保健・医療・福祉の現実に接

する機会を持ち、国際交流の体験が積めるようにすることである。

もう1つは、学生の海外での自主的活動(課外活動)が青田与志子記念慶應義塾大学看護医療学部教育研究奨励基金のサポートにより可能となり、課題の探求を通して、そこにかかわる人達との交流を深め、知見を広める体験が積めるようにすることである。

表1. 海外において実施する科目および課外活動

| <科目> | 単位数 | 対象学年 | 開講時期 | 履修可能人数 | 備 考 |
|-----------------------|-----|------|------|--------------|--------------------------------------|
| 看護実践(海外:急性期) | 1単位 | 3~4 | 秋学期 | 6~12 | 青田与志子記念慶應義塾大学看護医療学部教育研究奨励基金によるサポートあり |
| 看護実践(海外:慢性期) | 1単位 | 3~4 | 秋学期 | | |
| 世界の医療・保健制度Ⅱ | 1単位 | 1~4 | 秋学期 | 10~15 | |
| 助産技術Ⅱ | 3単位 | 3年 | 秋学期 | 10名以内 | |
| <課外活動> 各自の教育・研究テーマ | — | 1~4 | 全学期 | グループ 又は個人 | 青田与志子記念慶應義塾大学看護医療学部教育研究奨励基金によるサポートあり |

わが校が‘国際交流’を重視してきた背景には、「21世紀を担う学生には、人類の平和と繁栄、地球環境問

題などを視野に入れた健康のプランナーや担い手になることが期待されていること、および、学生が日常とは違った体験や異なる文化的背景の人と交流する経験を持つことは、物事にチャレンジする意欲を養い、考え方や態度に質的および量的に大きな成長が期待できる」と考えてきたからである。そして、学生のための‘国際交流’の機会を準備することは、カリキュラム企画運営の重要な機能の1つとして考えてきたからである。

ここでは、科目履修(選択)を通して、どのように‘国際交流’が行われているかについて述べてみたい。

1. 履修科目：看護実践（海外・急性期&慢性期）

急性期の概要：医療技術の先進国である米国において、患者が急性期状況を呈するときの集中的/特殊なケアの実際を見学する。特に、生命の危機状況にある患者や周手術期にある患者のケア、外傷・熱傷などの救命システム・救急処置、臓器移植などの先進医療に触れ(写真1)、急性期ケアにおけるチームアプローチについて学ぶ。

上述したことを通して海外の医療事情と日本の現状を比較しながら、医療や看護の今日的課題について考える。

慢性期の概要：患者在院日数の少ない米国において、重篤な慢性病や永続的な障害を持つ患者の、日常生活を支える専門的あるいは特殊なケアの実際を見学する。



また在宅療法を必要とする患者や身体行動が不自由な患者のケアの場に参加し、最新の情報テクノロジーが患者のコミュニケーション手段や生活の質にどのように影響しているかを観察する。これらを通して慢性病患者の人権やQOLを支える医療のあり方や課題について検討する。

実習施設：アメリカのミネソタ州にあるメイヨ・メディカルセンター(メイヨクリニック)。

実習スケジュール：学生は、急性期あるいは慢性期の患者ケアについて、1週間づつ交互に見学実習する(表2)。

実習指導方法：学生は1人または2人で病棟に行き、指導者であるメイヨクリニックのナースについて、見学実習する。学生の見学が終了した時点で、病棟では指導に関係したナースや指導者を交えて、確認や情報の追加、質疑応答のための短いミーティングが行なわれる。さらに全学生の見学が終了した後に、履修学生・担当教員が毎日一堂に会して、学びの共有化、翌日への課題の明確化のためのカンファレンスを行う。

表2. 慶應義塾大学看護医療学部看護実践2004スケジュール：MAYO CLINIC (例)

| 月日 | 予定 | |
|----------|---|--|
| | 学生A | 学生B |
| 8月27日(金) | ロチェスター国際空港着 ホテル着後、院内にて自己紹介、学習概要の説明など。ロチェスターの紹介、夕食、スーパーマーケットでの買い物 | |
| 8月28日(土) | 休日 | |
| 8月29日(日) | ミネソタ農業祭見学 | |
| 8月30日(月) | メイヨクリニックの紹介、看護部門の概要 メイヨクリニックのツアー、セントメアリー病院とメソジスト病院のツアー | |
| 8月31日(火) | 移植コーディネーターの役割である、状態観察、患者とその家族に対する教育、カウンセリング等について。見学、ディスカッション。 | 看護における感染管理、職員と患者教育をどのように行うかについて。感染管理室見学とディスカッション。 |
| 9月 1日(水) | 看護師宅にて夕食 骨髄移植病棟 (Unit9-4)にて、一人の看護師に付いてケアの見学。 | 患者教育センターを見学し、慢性疾患患者の生活習慣変容についてディスカッション。看護師による高血圧教育のクラスに参加。 |
| 9月 2日(木) | 臓器移植病棟 (Unit10-2)にて、一人の看護師に付いてケアの見学、ケアについてのディスカッション。 | 創傷ケアと感染管理に主眼を置いて、整形外科病棟 (Unit9-2)におけるケアを一人の看護師について見学。 |
| 9月 3日(金) | 看護師宅 (牧場) にてHay-ride 心臓移植手術後病棟 (MB6D/E)のICUにて、術後3日目の患者ケアを見学。心臓移植の概要について学ぶ。 | 術前教育についてディスカッション。 看護師による術前教育クラスに参加。 |
| 9月 4日(土) | まとめの会 (中間) | |
| 9月 5日(日) | ホームステイ | |
| 9月 6日(月) | 自己課題学習およびグループディスカッション (休日：労働者の日) | |
| 9月 7日(火) | ホスピス (Season's Hospice)を見学。ホームケアの事務所見学後、訪問1ケースに同行。85歳以上の宿泊施設Hope Lodge見学 | 栄養支援チームの概要を学び、チームとともに病棟をラウンド。 |
| 9月 8日(水) | 糖尿病患者の食事指導を見学。 | 予防医学と従業員の健康管理についてディスカッション。 ツアー：移植を受ける人とその家族のための宿泊施設「Gift of Life」 ツアー：救命救急体制の一つであるヘリコプター「Mayo one」 ツアー：小児患者とその家族のための宿泊施設「Ronald McDonald House」 |
| 9月 9日(木) | 緩和ケアチームにおける看護師の役割について：ケア見学とディスカッション。エリクソン・スキン&ヘアセンター見学 | ホームケアについてディスカッションと見学。 |
| 9月10日(金) | 手術の見学 (肺癌) | 女性の心疾患患者についてディスカッションと外来の見学。 |
| 9月11日(土) | 2週間の学びの成果発表 修了証書の授与 (写真2) & ディナーパーティー | |
| 9月12日(日) | 成田空港着 | |

2 週間の学びの成果発表：

実習最終日に、2週間の学びの成果を学生個々人が発表する。この会には2週間の実習指導にかかわったメイヨクリニックのナースが参加し、個々の学生の学びにコメントやアドバイスをする。これらを通して、学生はさらに理解を深め、視野を広め、新しいことに挑戦しようとする意欲を増すようになる。

課外活動：メイヨクリニックのナース

スによるホームステイ、イベントなどへの招待は、学生にアメリカ社会への近親感を与える。とくにホームステイやHayrideは、楽しい体験の記憶として、帰国後も学生間でいつまでも語られる。

修了証書授与と歓送会：2週間の実習終了時に、メイヨクリニックの実習受入担当者から修了書が手渡される。この会には、病院や施設で実習指導に関わった看護師、2週間の滞在に対してホームステイやイベントへの招待など様々な面から支えてくれたアメリカの方々の同席を得て開催される。

このとき学生達は、「メイヨクリニックで実習の機会が与えられたことに深く感謝していること、詳細で温かい配慮に満ちた実習スケジュールであったので、より関心が広まり、成果が大きくなったこと、看護の道を選択したことに自信と誇りを強く持つようになったこと、また2週間の成果は、この方々のサポートを受けて得られたものであることを強く感じ、深く感謝している」ことを述べる。そしてお礼として、日本文化の紹介を兼ねて、実習の合間に練習を重ねて準備した「日本の歌や踊り」のパフォーマンスを行う。

2. 世界の医療・保健制度Ⅱ

概要：この科目では、英国における医療・看護・保健・福祉に関わる制度や政策について、現地における講義・見学・参加を通じて知見を広め、日本における制度や政策と比較し、考察を深める。病院・公共機関・福祉施設・教育機関を訪問し、看護および看護教育・福祉・医療政策に関わる現地の講師による講義を受けるとともに、討議を行う。

交流する大学や施設：サフォークカレッジ、フレキシントン病院、セント・トーマス病院などを訪問し、講義を受ける、あるいは見学を通して意見交換し、知見を広めている。特にサフォークカレッジでは、5日間の講義とディスカッションを通して英国における医療・看護・保健・福祉に関わる制度や政策について知見を広



写真2

めるとともに、学生・教職員との交流会が設けられて親睦を深めている(写真2)。

3. 助産技術Ⅱ

概要：この科目は、3年次夏期休暇中に約2週間にわたって、先進的な母子保健システム、助産技術をもつ英国で学ぶ。より健康で人間らしい出産や子育てができるように、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児の健康と安全を守り高める援助、助産診断・出産介護・母乳管理の技術、育児をスムーズに行うための基本的な援助技術および指導方法について学習する。また、看護教育の歴史の長い英国において助産師の果たす役割について学ぶ。渡航前、帰国後の集中講義では、助産システム、助産技術の日英比較を行い、日本における助産援助システムのあり方、助産師のあり方についても考える。

交流する大学：

シェフィールド大学を訪問し、看護助産学部の教員やシェフィールド大学の契約助産師から講義や技術演習を受ける(写真3)。



写真3

ここでは日本の母子保健制度と英国の制度とを比較し、相違点、相似点、長所、短所、日本の助産師が英国に学ぶべき点等について話し合い、相互理解を深めている。またコミュニティー病院や地区病院、マタニティー病院、特殊機能を持つ施設 (Family planning center, Midwife's office 等) で働いている助産師の活動の実際を見学し、助産師の様々な活動のあり様に大きな刺激を受けている。

学生達はこのような海外で学習する科目を通して「国際交流」を経験し、看護の役割の大きさを再認識し、看護にコミットメントできるようになりたいと強く動機づく。さらに、自分の考えを明確に表明することの必要性、国際語としての英語力を高めること、感性や創造性を磨くこと、そして身近な現実に関する新たな発見と、他者(国)との協調が大事であるなどを強く実感している。

このように「国際交流」は、ケアを志すわが校の学生にとってはかけがえのない体験を積む機会になっている。

わが校のユニークな取り組み

めざせ産業看護職；労働者の安全と健康管理は任せてください

産業医科大学 石原 逸子

産業医科大学は、昭和54年に労働者の健康の保持と安全に貢献できる人材育成の目的で設立された。平成8年より産業保健学部看護学科で産業看護職の養成が行われているが、全国の看護系大学には類を見ない産業看護関連カリキュラムについて「わが大学のユニークな取り組み」として紹介する。

看護学科の教育目標の一つに「産業保健分野の専門家と協力して産業看護の実践に貢献できる能力を養う」とあり、この目標を達成するためのカリキュラムには、労働衛生関連科目群（例えば、人間工学概論、労働生理学概論、職業性起因病態学概論、作業環境管理学概論等）が通常の専門基礎科目にプラスして開講している。さらに、産業看護学総論・各論、産業看護学実習は必修科目として設けられている。中でも産業看護学実習では、毎年70名の学生が、大学の所在地である福岡、九州圏内ばかりでなく中国・四国、中部、関東にある32～34の事業所、労働衛生機関を実習施設として使用し2週間の実習を行っている。実習内容には、直接オフィスや工場に出向き、働く人々の労働環境（作業環境、勤務体制、人間関係等）、作業内容、有害業務等を直接見学できる「職場巡視」がある。このような職場巡視体験は、粉塵作業者の塵肺や重量物取り扱い従事者の腰痛症など働くことが直接職業病に関連すること、また、組織的対策による職業病予防等について直接学ぶ機会となっている。



さらに、毎年1年に1回行われている定期健康診断の実施およびその後の有所見者への保健指導に参加し、仕事が健康に及ぼす直接的な影響について（近年では長時間労働によるうつ病の増加や生活習慣病等）理解を深めている。



学生の多くは、上記のような実習体験を通して労働者のヘルスニーズを知ることができ、そ

の上でさらに実習施設で特定の個人・集団に対して「健康教育」を実施する。本学では、「健康教育学」を授業科目としており、大学での講義・演習で学んだ事柄を実習で試みることができるが、その為には、事前学習ばかりでなく実習施設の指導者による数回のリハーサル等、現地で多くの方々の協力支援体制が整って初めて実現できるといえる。ちなみに学生が過去に実施した健康教育のテーマは「生活習慣病について：高脂血症、高尿酸血症」「メンタルヘルス」「熱中症」「お酒と健康」「食中毒予防」「VDT作業者の教育：視力低下、ドライアイ、眼精疲労、肩こりや腰痛予防」「禁煙について」等である。また、2週間に及ぶ実習でもあり、学生たちにとっては、産業看護職が、産業医、事業場で選任される衛生・安全管理者、作業環境測定士、産業カウンセラー等と協働して産業保健活動に取り組む姿をロールモデルとして見る事ができる貴重な実習でもある。最後に、学生の成熟度や看護専門職としてのレディネスを考えると、学部教育としては内容がやや高度すぎる嫌いもあり、産業看護の更なる発展と充実の為に大学院での産業看護職の養成を願っている所である。

以上、産業看護職養成について本学のユニークな取り組みを紹介した。

平成17年度学生および教職員に関する福利厚生事業ワークショップ報告

ストレス対策の妙案～ロダン体操でココロとカラダが楽になる～

日 時：平成18年2月18日(土)

場 所：アクトシティホテルオークラ

企 画：聖隷クリストファー大学・飯田女子短期大学

対人援助職を育てる看護の教員は、学生と患者／利用者そして看護職者などさまざまな対人ストレスに日々さらされています。このストレスを和らげる方法として＜発想の転換＞を実体験し、芸術と看護の接点からアタマとカラダの関係を探ってみました。

今回は斬新な「ロダン体操」を発案された静岡県立美術館学芸員 堀切正人氏と浜松ご出身の女子美術大学 高橋唐子氏によるパフォーマンスを参加者全員が体験しました。また、新たな発想でストレスモニタを開発されたヤマハ発動機(株)水野康文氏により、「簡易ストレスモニタ α Amy」開発の経緯と、イベント前後のストレス測定の実際を紹介していただきました。

ロダンを楽しんで、ココロとカラダが楽になる、看護に生かせる企画に多くの方が楽しんで下さいました。

- ・開催日時：平成18年2月18日(土) 13時から16時
- ・会 場：アクトシティホテルオークラ 平安の間
- ・参加者数：約50名
- ・開催担当：聖隷クリストファー大学看護学部
深瀬須加子、渡邊順子
飯田女子短期大学看護学科
稲吉久美子、岩月すみ江

◆プログラム

◇ 最新ストレスの評価についての一試案



ヤマハ発動機CRD本部
システム技術研究チーム
水野 康文

日常生活における交感神経活動のモニタリングを実現するために、ドライケミストリー式の「簡易ストレスモニタ α Amy」を開発しました。α Amyには、比色法による唾液アミラーゼ活性値の測定技術のほか、活性値に影響を与える環境温度機能が搭載されています。α Amyの性能を示す

検量線は、唾液アミラーゼ活性が10～140[kU/L]の範囲でR2=0.99と良好な結果が得られました。想定される実用範囲に十分適用可能で、一般的な簡易測定器以上の精度が実現されている。唾液採取までを含めておよそ1分程度で唾液アミラーゼ活性を分析する技術が確立されました。

今回のイベント前後の測定結果としては、イベント後に交感神経活動が活性化したためストレス評価は高くなりました。

◇ ロダン彫刻の見かた、楽しみかた



静岡県立美術館学芸員

堀切 正人

《考える人》のポーズのポイントを、実際にやってみるとかなり無理な姿勢になります。

- 1 右手でほおづえ
- 2 右ひじは、左足の上(体をひねる)
- 3 足首を引いて、頭がそれよりも前に出る(かなりの前傾姿勢)
- 4 背中の筋肉がもりあがっている

《考える人》《地獄の門》《カレーの市民》など、ロダン彫刻はストレスフルなものです。《考える人》は、地獄について、あるいは人が生きることや、その罪深さなどについて考えています。《考える人》は、ぼーっと考えている人ではなく、がんばって考えている人なのです。

つまり、ロダンは、ぎりぎりのところで踏ん張って、がんばって立っている人が好きだったのでしょう。がんばるという表現のために、あえて無理な姿勢のポーズをした彫刻をたくさん作ったと考えられます。

がんばるということが、生命感あふれる、ロダン彫刻の特徴になっているのです。

◇ ロダン彫刻を生かしたカラダのパフォーマンス ーロダン体操ー



女子美術大学 高橋 唐子

ロダン体操は2002年に静岡県で行われた「わかふじ国体」のスポーツ芸術競技、として制作しました。

静岡県立美術館のロダン館には「考える人」で有名なオーギュスト・ロダンの彫刻が数多く展示されています。じっくり鑑賞するにはよいのですが、展示替えのないロダン館への入場者数が伸び悩んでいる、ということで《ロダン彫刻でスポーツ芸術を》と依頼がありました。

何が出来るか色々と考えましたが、気軽に彫刻のポーズがとれる体操にしました。体操をするには、彫刻を細かく観察し、表現しなければなりません。彫刻を体全体で体感することによって、普段の鑑賞とは全く違った感想を持てるはずです。ロダン体操のポイント、それは「彫刻になりきること」です。どんな背景で、こういった体勢をとっているのか、登場人物になりきって体操のポーズをきめてみて下さい。

堅苦しい、と思われがちな芸術ですが、ロダン体操をきっかけに美術の新しい見方、楽しみ方を体験し、身近に感じて、少しでも興味を持ってもらえたら、と思っています。

◎ ワークショップに参加して

飯田女子短期大学 岩月すみ江

●最新ストレス評価についての一試案について

ストレスを評価する指標としてはこれから期待できるものだと思います。今までは個人の主観的なもので計られていたため本当にそうかなと疑いを挟まれることもありましたが、客観的に数値として出てくるものには皆が納得いくのではないかと思います。特にVASとの比較では興味を引かれるものがありました。簡便に測定でき非侵襲であることも大変に好感が持てました。唾液中の定量では個人差が大きいとのことでしたが、今後のデータの積み重ねと商品化に期待します。

●ロダン彫刻の見方、楽しみ方について

一つの彫刻にはその作者の様々な気持ちが込められているものとは知っていたのですが、学芸員の方に時代背景を含めたいろいろな話を聞いて、ロダン彫刻に大変興味、関心を持ちました。また彫刻を色々な角度から見る事の大事さを分かり、ほかの物事も多角的に見ることができるようにしたいと思いました。

●ロダン彫刻を生かしたカラダのパフォーマンスについて

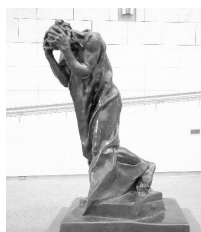
楽しく運動できましたが、ロダン彫刻の「考える人」以外はなじみがなかったので、帰宅したら思い出せず残念で、資料でもあればいいなと思いました。また、音楽が早かったので、適当になってしまいうところもあり、音楽なしで一つ一つポーズを丁寧にやっている時のほうが、ストレッチのような感じで身体に効く気がしました。彫刻のポーズを真似てみるという経験はいままでなかったので、美術館などに行ったときは真似してみてもいいかなと思いました。

◎ ワークショップに参加して

聖隷クリストファー大学 佐藤 道子

今でも高橋先生の「ロダン！ロダン！はい！ジャン・デール！」のはつらつとした掛け声が脳裏に蘇ってくる。参加したの若者、若干そうでない面々が、用意された赤、青、緑のロダンTシャツを着て、静岡県歌に合わせて身体を動かす。ロダン体操は全体で約3分程度、その中にロダン彫刻のポーズが9種類。だから、手足を動かして「はいポーズ！」くるくる回って「はいポーズ！」となる。私の手足の動きはぎこちなくポーズが取れているかどうかは怪しいもの。しかし、何回か繰り返しているうちに、息が切れてきて、ちょっと汗ばんで、会場全体が華やかできた。結構運動量のある、しかも楽しい体操だ。時間が来て高橋先生の「はい終わりましたよ！」の声に私の後ろで、軽やかに体操をしていた聖隷クリストファー大学の学生は「楽しかった！大学でもやれるといいですね！」と声を弾ませていた。気がついてみたら私の肩こりも楽になっていた。

(プランナー・コーディネーター：聖隷クリストファー大学 渡邊順子)



事務局からのお知らせ

平成18年度 研究助成 応募受付中

応募期間は、4月末日までです。

詳しくは、協会ホームページ(<http://www.spcnj.jp/>)をご覧ください。

平成18年度 総会のお知らせ

■開催日時：2006年7月7日（金）10：30～13：00

■会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

最寄り駅：市ヶ谷駅／地下鉄（東京メトロ、都営）、JR中央線、総武線

総会のご案内は、5月下旬に各会員にお送りするとともに、協会ホームページにも掲載いたします。

※午後は当協会結成30周年記念祝典がございますので、例年より30分早めての開催となります。

結成30周年記念祝典

当協会は、今年で結成30周年を迎え、その記念祝典が総会後に行われます。

■日程：2006年7月7日（金）13：30～18：30

■会場：アルカディア市ヶ谷

■テーマ：「看護教育における私学からの革新」

■ [プログラム]

◇記念式典 13：30～14：00

◇記念講演 14：00～15：00

[Innovation in Nursing Education in Japan Aiming at Expansion of Nursing Profession]

McMaster大学（カナダ）Andrea Baumann 氏

◇シンポジウム 15：15～17：00

「拡大する看護実践を支える教育の革新」

◇祝賀会 17：00～18：30

第8回 教職員セミナーのご案内

加盟校教職員を対象としたFDセミナーを開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

■日程：2006年11月11日（土）10：00～17：00

■会場：聖路加看護大学

■担当校：聖路加看護大学

■テーマ「看護教育の根本は、魅力ある臨床から」（仮題）

■ [プログラム]

午 前

平成15年度 研究助成受賞者の研究成果報告（6名）

午 後

教育講演（海外講師）

シンポジウム

臨地実習施設からの発言

「学生実習を引き受けて現場はこう変わった！」

ホームページの充実

協会ホームページに、新たに「入試情報」のページが加わりました。ご利用ください。

編集後記

2005年は国内外で大災害・凶悪犯罪・異常気象と暗いニュースが多い年でした。

15号編集にあたり、ご多忙中のご依頼にもこころよくお引き受け頂いた日野原先生、櫻井先生には深く感謝申し上げます。

医療の高度化、少子高齢化に伴い健康・福祉等の制度改革が大きく取り上げられる昨今、看護系大学数が約160校を占める今日看護職を養成する私立教育機関は、自学の教育理念の下どのような看護職を世に送り出したのか。

看護実践の場で真価が問われる時ではないでしょうか。

本協会創立30周年を迎えるにあたり、益々複雑化する医療・福祉の場で、卒業生一人ひとりが専門職に就くという自覚をもち、自らを宣言（プロフェス）することができる人材を送りだすため本協会が果たすべき役割は大きいと思います。今後も加盟校のみならず私立看護系大学の叡智を結集し特徴ある看護学教育の発展につながることを期待いたします。

（東海大学医療技術短期大学 熊谷智子）

日本私立看護系大学協会会報 第15号

発行者：日本私立看護系大学協会 <http://www.spcnj.jp/>

事務局：〒180-8618 東京都武蔵野市境南町1-26-33 日本赤十字武蔵野短期大学C館内

TEL 0422-39-5295 / FAX 0422-39-5296 E-mail jpnacs@jade.dti.ne.jp

編集責任者：岡嶋 透 溝口満子

編集

東海大学健康科学部

石井美里

佐藤朝美

東海大学医療技術短期大学

熊谷智子

熊本保健科学大学

本田千浪

印刷所

港北出版印刷株式会社